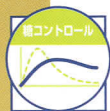


猫用 糖コントロールは、糖尿病の猫に給与することを目的として、特別に調製された食事療法食です。この食事は、タンパク質を増量\*1しています。高タンパク質、低炭水化物、低脂肪の食事は、肝リピドーシスの猫の食事療法食としても適しています。

この食事療法食の対象



● 糖尿病

食後の高血糖を考慮し、糖吸収速度の遅いコーンを使用しています。

● 減量後の体重管理

減量後の体重維持をサポートするために、エネルギー密度\*3を低く設計しています。

● 肥満傾向

肥満に配慮した高タンパク\*1・低炭水化物\*2・低脂肪\*4の設計です。



● 肝リピドーシス(自発的に摂食できる場合)

猫の肝リピドーシスを引き起こす原因である生化学的メカニズムは、完全にはわかっていませんが、肥満、タンパク質欠乏、過剰な脂質分解、過剰な脂質生成などが関連要因としてあげられています。肝性脳症がない場合は、高タンパクの食事が推奨されます。ただし、食欲がない場合は、チューブフィーディングなどの強制給餌が必要となります。また、肝リピドーシスの猫にみられる肥満を考慮して、高タンパク\*1・低炭水化物\*2・低脂肪\*4に設計しています。注意：現在インシュリン療法をしている場合には、食事の変更にあたって再度インシュリン投与量を調整してください。

※継続して使用する場合も定期的な診察を奨励しています。

成分

単位/400kcal

|         |          |         |         |
|---------|----------|---------|---------|
| タンパク質*1 | 50.6g ↑↑ | 銅       | 2.81mg  |
| 脂肪*4    | 16.9g ↓  | 亜鉛      | 14.06mg |
| 食物繊維    | 11.2g ↑  | ナトリウム   | 1.12g   |
| 灰分      | 6.7g     | EPA+DHA | 619mg   |
| 水分      | 464.0g   | L-カルニチン | 6.75mg  |
| 炭水化物*2  | 15.7g ↓  | タウリン    | 0.79g   |
| カルシウム   | 2.0g     | アルギニン   | 2.81g   |
| カリウム    | 0.79g    | ビタミンE   | 52.3mg  |
| リン      | 1.41g    | ビタミンC   | 21.37mg |
| マグネシウム  | 0.05g ↓  | ビタミンB群  | 18.71mg |
| 鉄       | 26.43mg  |         |         |

↓やや制限 ↓↓制限 ↑やや強化 ↑↑強化

代謝エネルギー … 74kcal/100g ↓\*3



規格：100g

1日の給与量の目安

| 成猫の体重 (kg) | 3    | 3.5  | 4    | 4.5  | 5    | 5.5  | 6    | 6.5  | 7    | 7.5  | 8    |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 標準         | 235g | 275g | 310g | 350g | 390g | 430g | 465g | 505g | 545g | 585g | 620g |
| 調整範囲       | 最大   | 275g | 325g | 370g | 415g | 460g | 505g | 550g | 600g | 645g | 690g |
|            | 最小   | 195g | 225g | 255g | 290g | 320g | 350g | 385g | 415g | 445g | 480g |

ここに表示されている給与量はあくまでも目安です。個体差や活動量に応じて最大値と最小値の範囲内にて調整を行ってください。

使用が推奨されない病態等

- 妊娠/授乳期、成長期  
この時期の減量は推奨されません。

原材料

豚肉、鶏肉、鶏レバー、豚レバー、コーンフラワー、セルロース、魚油、マリーゴールドエキス(ルテイン源)、増粘多糖類、ミネラル類(Ca、P、Mg、Na、K、Cl、Zn、Fe、Mn、Cu、I)、アミノ酸類(タウリン、L-カルニチン)、ビタミン類(コリン、C、E、B1、ナイアシン、D3、B2、パントテン酸カルシウム、B6、葉酸、ビオチン、B12)

※調達の都合により、原材料を変更する場合がございます。

追加情報

- 給与期間は血糖症の程度によって変わります。猫の糖尿病は可逆的な疾病ですが、継続的な給与が再発のリスクを最小限にします。
- この食事のような低炭水化物食を与えると、一般的にインシュリン感受性があがります。インシュリン療法と併用してこの食事を給与する場合には、血糖値とインシュリン感受性のモニターが推奨されます。
- 肥満傾向で下部尿路疾患の猫には、「猫用 pHコントロール ライト(ドライタイプ)」もあります。
- 成猫の栄養要求を満たしています。
- 本製品の各適応に対して選択いただける他のパラエティについては、「疾病からみる適応表(P.7、P.8)」をご覧ください。